

第25回 令和7年5月21日（水）

「プレゼンテーションの優先順位について」

「よく笑い話で「校長の話は長い。」と言われます。私自身かつて校長先生から集会などで聞いたお話で今も記憶しているのはたった1フレーズのみ、それも小学校時代のものです。」

できているかどうかはわかりませんが、私がプレゼンで気をつけていることは次にあげる「話し方の優先順位」です。

- ①どのように話すか
- ②何を話すか
- ③その話のロジックは正しいか

つまり何を話すか（WHAT）よりもどのように話すか（HOW）を重視しているということ。だってどんなに良い話でも、聞いてもらえなければ意味がありません。

難しい語句やスライドを使って長く話すと「伝える」という目的を果たすことができなくなってしまいます。シンプルにわかりやすく伝えることが大切です。

例えば難しい言葉で淡々と話し続ける映画があったとしたら、何分見ることができますか？3分が限界ではないですか。

面白い映画や小説はインパクトのある短い会話がテンポよく続き、なおかつ記憶にも残ります。結局難しい話を長々と続けることは自己満足に過ぎません。

ビジネスの世界で力のある経営者は「1分で話せ」「結論から言え」を徹底しています。

これからみなさんも就職試験など、プレゼンの機会は多くなると思います。一生懸命調べて専門家のように難しい言葉を並べようとするかもしれません。

もちろん必要な専門用語はあると思いますが、起承転結の「結」を明確にして、できるだけ最初に話し、説得力のある事例を紹介する話し方が相手をひきつけます。

もう一つは声の質や表情など非言語要素を大事にすることです。特に面接は最初の挨拶が肝心。それによって面接官の心理は「受からせたい面接」と「落としたい面接」のどちらかに大きく偏ります。

なるべく短めにわかりやすく話すことを心掛けますので、みなさん「校長の話は長くてつまらないもの」と決めつけないで聞いてみてください。よろしくお願ひします。